



系組：應日系

准考證號碼：□□□□□□

科目：日文閱讀及寫作

(請考生自行填寫)

注意事項	請先檢查准考證號碼、報考系(組)別、考試科目名稱，確定無誤後再作答。 所有答案應寫於答案紙上，否則不予計分。 作答時應依試題題號，依序由上而下書寫，作答及未作答之題號均應抄寫。
------	--

### 一. 讀解(50%)

#### 問題 I 次の文章を読み、あとの問い合わせに答えなさい。

ひとりの現場教師の報告によれば、以前は体や家庭のハンディキャップを見つけていじめていたが、最近はむしろ、プラス面でみなと違う子供にいじめが集中する傾向がみられる。はじめな子が「いぶり」(いい子ぶりっ子の略)とののしられたり、美人の子・いいマンションに引っ越した子・勉強のできる子がいじめられる例も多い、という。(A) 共同化された疎外や排除の矛先が、正・負いすれであれ、集団のなかのある種逸脱した部分に向けられていることがわかる。

実際のところ、いじめられっ子という役割は特定の子供が負わされるものではなくなっている。極端にいえば、いかなる生徒もその役割からまったく無縁でありとおすことが不可能な状況、いわば「明日はわが身」という不安の日常化が、相互のいじめ行為を陰湿な根深いものとしているのである。

いじめの標的は、もはや特定のだれかではない。誤解を恐れずにいえば、だれでもいいのだ。(B) 状況の恣意が犠牲者を決定する。いじめはほんとうに些細なことからはじまる。ピアノができることで目立つ、料理がうまいと教師にほめられる、風邪で鼻水をたらしている、授業中おならをする……、そんな理由になるとも思えぬようなことが、いじめの絶対的な理由となる。クラスのだれか数人が、「あいつ、近頃ムカツクぜ」と(A) 囁きかわした瞬間に、いじめはすでにはじまっている。風邪で休んだ翌日から、いじめられっ子にしたてあげられた例もある。風向きがかわったのだ。理由なきいじめ——。

典型としてのいじめられっ子は、しだいに姿を消しつつある。さきにあげたいじめられっ子像も、たぶんに I であり、けつして絶対的な基準ではない。平均値(像)からの隔たり・偏奇を(I) ユイツ の基準として、子供たちは教室のなかの自分の アイデンティティ をはかりつつ、いじめられっ子を抽出する。 II 、性格のより暗い子供が標的に択ばれやすいとともに、逆に、明るすぎる子供は「めだちたがり」「ウソっぽい」などと標的にされるかもしれない。あるいは、気が弱くすぐいじけて泣く子が標的に択ばれやすいと同時に、逆に、(ウ) 我が強く自分を押しだしすぎる子供も標的となりやすい。平均値(像)から、とにかくプラスの方向にもマイナスの方向にも偏奇しすぎないこと、それが(C) いじめから身を守る、子供たちのギリギリの処世術 となっている。

(中略)

学校はいま、子供たちにとって、大人社会以上に神経をすりへらし、たえずピリピリしていなければならぬ世界であるのかもしれない。いじめられないためにはどうすればいいか——と問われて、目立たないこと・他人と違うことをしないことと答える子供たち。たえず、教師やクラスのリーダー(ボス)の顔色をうかがい、目立たないように、気分を損ねないようにと、無意識に行動を規制しなければならない子供たちの現実は、わたしたちになにを語っているのだろうか。

(出典:赤坂憲法、『排除の現象学』、1995年7月、筑摩書房)

**問一** 傍線部（ア）～（ウ）について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みを書きなさい。

**問二** 傍線部（A）「共同化された疎外や排除の矛先が、正・負いざれどあれ、集団のなかのある種逸脱した部分に向かられている」とほぼ同じ内容が述べられている一文がある。その一文を探し、その最初と最後の五文字を書きなさい（句読点や記号も一文字に数える）。

**問三** 傍線部（B）「状況の恣意が犠牲者を決定する」とはどういうことか。以下の選択肢から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ① 現在のいじめにおいては、いじめられる理由が全く存在しないにも関わらず、いじめの標的として選ばれてしまう可能性があるということ。
- ② 現在のいじめにおいては、プラス面で他の皆と違うということが、いじめの標的として選ばれる大きな理由になっているということ。
- ③ 現在のいじめにおいては、おならをしたり、教師にほめられたりすること等が、いじめの標的として選ばれる代表的な理由になっているということ。
- ④ 現在のいじめにおいては、いじめの標的が決まる際の理由に必然性がなく、人々の気分次第でどんなことでも理由になりうるということ。

**問四** 空欄 I に当てはまる最も適切な言葉を、次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 固定的
- ② 精神的
- ③ 流動的
- ④ 空想的
- ⑤ 決定的

**問五** 空欄 II に当てはまる最も適切な言葉を次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

- ① しかも
- ② しかし
- ③ あるいは
- ④ たとえば
- ⑤ ところで

**問六** 傍線部（C）について、「子供たち」にとっては、どうすることが「いじめから身を守る」「ギリギリの処世術」になっているのか。その答えとして最も適切な箇所を、「～こと」に続く形、かつ、三五字以上四十字以内で抜き出し、その最初と最後の五文字を書きなさい（句読点や記号も一文字に数える）。

**問七** 本文の内容と一致するものを、次の選択肢の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 以前は、マイナス面で他の皆と違うことがいじめの理由になっていたが、現在は、プラス面で他の皆と違う子供のみがいじめられるようになっている。
- ② 以前の学校においては、いじめられる子供の数が非常に多かったのだが、現在の学校においては、いじめられっ子は次第に姿を消しつつある。
- ③ 学校はいま、大人社会以上の競争社会になっており、そのため、子供たちは、大人以上に神経をすりへらし、たえずピリピリしていなければならない状態に置かれている。
- ④ 現在の子供たちにとって不安が日常化しているのは、現在は、誰もがちょっとしたきっかけで、いじめられっ子に選ばれてしまう可能性があるからである。

## 問題II 次の文章を読み、あととの問い合わせに答えなさい。

記号とはなにか。

それは、たとえば、あなたがたつたいま目にした「か」という文字である。なぜなら、「か」はたんなるインクの染み以上のものとして、そこにあるからだ。それは、/ka/という日本語の音(音素)に対応する文字として、あるいは冒頭の文のなかでは「疑問」を表わす助詞として、あなたには認識されている。つまり、「か」は日本語の文字体系あるいは日本語の文法体系といった、なんらかのシステムに属するメンバーであり、そのような存在として意味をなっている。そのかぎりにおいて、「か」はあなたにとってひとつの(記号)なのである。

文字や言葉だけが記号ではない。また、道路標識や交通信号、化学式や商品のブランド・マークといった人工的な「しるし」だけが記号なのではない。あなたが目にし耳にするものすべて、あなたが考えたり想像したりするものすべて、要するにあなたにとって(意味)をもつすべてのものが記号なのだ。あなたの部屋の壁にはてあるポスター、これももちろん記号だ。あなたはそれを「ポスター」として、しかもあなたの好きな映画スター〇〇〇の、あるいは画家〇〇〇のポスターとして見ているではないか。外から聞こえてくる物音、これもやはり記号だ。I、あなたはそれを「自動車の音」として聞いているではないか。あなたの隣にすわっている人、これもまた記号だ。だって、あなたは彼を友人の〇〇〇として認識しているではないか。

〈記号〉ということが今日とくに問題になっていることの根底には、(A)われわれ人間がこのように意味という病にとりつかれた存在である、という基本的な認識がある。つまり、われわれ人間は、「事物そのもの」を見つめることのできる精神的・身体的な(ア)強韌さをもっていない。そのために、あらゆる事物をなんらかの(意味)へと還元せずにはいられないということである。われわれは世界のすべての事象に(意味)を与え、それを記号化せずには、安心して生きていけないのだ。われわれひとりひとりの世界は、多種多様な記号からなり、記号のシステムとして秩序づけられているのである。われわれが「世界」とか「現実」とか呼んでいるのは、このような記号システムにほかならない。

こうした生のリアリティにもとづいて現代の記号学を創設したのが、スイスの言語思想家エルディナン・ド・ソシュールである。彼が明らかにしたことを二箇条にまとめると、第一に、われわれ人間は「意味をなったもの」、すなわち記号しか認識することができないということ。そして第二に、記号とはそれ自身のなかに意味をもっているのではなく、それをとりまく他の記号たちとの(関係のネットワーク)、すなわちシステムのなかでしか意味をもちえないということ。II、記号とは、実体ではなく、関係的・相対的な存在であるということであった。〈記号学〉という新しい科学は、このような根本的な存在=認識論に基盤をおいて構築されてきたのである。

しかし、どうだろう。あなたはいつも、日ごろ見なれた、だれもその根底を疑わないような記号の世界のなかで、なんの不安もなしに生活しているだろうか。たとえば、さきほどの「か」という文字(=記号)をじっと(イ)凝視していたらどうなるだろうか。あるいは、こんなふうにたくさん出てきたとしたら？

かかか  
かか  
かかか  
かか

(B)これらの「か」たちは、もはや「か」という文字であることをやめて、なにか気味のわるい線の踊り、あるいは幽霊の大群のようなものとして立ち現われてきてはいないだろうか。それらは、記号であることをやめて、「物そのもの」とでもいいたくなるような、なまの手ざわりをもち始めてはいないだろうか。

(中略)

こんなふうに、記号というものは、もともと確固たるものとして、必然的に存在しているわけではない。ひょっとしたはずみに、われわれは記号を記号として認識する日常の習慣を(ウ)喪失して、うすきみわるい(無意味)の世界の露呈に遭遇す

ことがある。要するに、記号といふものは、**III** のものではなく、生まれたり壊れたりするものなのだ。

(出典:立川健二、「記号」、立川健二・山田広昭、『現代言語論』、1990年6月、新曜社)

問一 傍線部（ア）～（ウ）の漢字の読みを書きなさい。

問二 空欄**I**、**II**のそれぞれに当てはまる最も適切な言葉を次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

- ① ところで ② つまり ③ または ④ しかし ⑤ なぜなら

問三 傍線部（A）について、「われわれ人間」が「意味という病にとりつかれ」ているというのは、どういうことか。以下の選択肢から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 文字や言葉、道路標識や交通信号、化学式などの人工的な「しるし」、その他、人間にとて〈意味〉をもつものすべてが記号である、ということ。  
② 人間にとて、事物を「事物そのもの」として見るのは困難であり、それ故、人間はあらゆる事物を「記号」化せずにはいられない、ということ。  
③ 人間は、どのような事物に対しても深い「意味」を読み取ってしまうという、ある種の精神的な病気にかかる存在である、ということ。  
④ われわれ人間は、時々、記号を記号として認識する日常の習慣を喪失し、〈無意味〉の世界の露呈に遭遇してしまうことがある、ということ。

問四 傍線部（B）で述べられている、「か」という文字たちが、「もはや「か」という文字であることをやめて、なにか気味のわるい線の踊り、あるいは幽霊の大群のようなものとして立ち現われてくるという事態だが、筆者は、このような事態のことを本文中の別の部分で、より端的かつ一般的な、十九字の表現で言い換えている。その箇所を探し、その最初と最後の五文字を書きなさい（句読点や記号も一文字に数える）。

問五 空欄**III**に当てはまる最も適切な言葉を、次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 不即不離 ② 千変万化 ③ 不易流行 ④ 二律背反 ⑤ 不変不動

問六 本文の内容と一致しないものを、次の選択肢の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 「か」が、単なる線の集合ではなくて「記号」であるのは、「か」というものが、われわれ人間にとて「意味をになったもの」として存在しているからである。  
② 人間にとて、事物を「事物そのもの」として見るのは不気味な体験であり、そのような体験に耐える精神的・身体的な強靭さを、人間はもっていない。  
③ 文字、道路標識などの人工的な「しるし」、部屋に貼ったポスターなどが「記号」なのは、それらが、人々にとって「必要なもの」として認識されているからである。  
④ 記号とは、関係的・相対的な存在であって、ある一つの記号の意味といふものは、それをとりまく他の記号たちとの〈関係のネットワーク〉、すなわちシステムのなかで生じる。

## 二．作文（50%）

以下のA・Bのうち、いずれか一つの問題を選択し、800字前後の文章を書いてください。ただし、600字未満、1200字以上は減点の対象とします。

### 【問題A】

大学院で研究したいテーマについて述べてください。その際、その研究を行うことにどのような意義があるのか、そしてどのような方法・観点からその問題にアプローチするつもりなのかもあわせて説明してください。

### 【問題B】

以下のキーワードの中から一つを選択し、そのキーワードに即した文章を作成してください。あわせて文章の内容に最も適したタイトル(題目)をつけてください。

また文章中では、必ずあなた自身の明確な主張を示すようにしてください。

#### 【キーワード】

ナショナリズム グローバル化 母語干渉 格差社会 歐州金融不安 民主化運動  
多文化主義 少子高齢化 地球温暖化 サブカルチャー 語用論 文化帝国主義  
日本文学 民間伝承 創られた伝統 メディア・リテラシー 産業の空洞化